

第2回栄養管理研修会

(管理栄養士・栄養士研修会)

- 日時 平成28年12月14日(水) 10時～16時20分
- 会場 岡山県医師会館 第1会議室
- 出席者 72病院79名・委員7名出席

昨年に引き続き、近森病院の宮澤靖先生に管理栄養士・栄養士を取り巻く現状がいかに危機的状況であるか、またそれを打破するために何をすべきかを含めて知識の向上、スキルアップのためのポイント等について講演いただいた。

講演 栄養管理に必要な「からだのしくみ」の知識とともに学ぶ



講師
社会医療法人近森会
近森病院 臨床栄養部長
栄養サポーターセンター
宮澤 靖 センター長

超高齢化社会を迎え、対象者および疾患の状態が変化していく中で、的確に栄養管理に必要な情報を引き出す必要がある。症状は同じでも原因は患者個々により違っている。間違った問診の仕方をしていく管理栄養士が多いので、コミュニケーション能力を培うことが必要である。大切なのは、病名を見るのではなく患者を見ることである。

バイタルサインには、血圧、脈拍、呼吸、体温、意識レベルがある。各々の作用機序、相互関係が理解できることで効果的な栄養管理ができる。

心機能低下の主な原因疾患のうち心房細動は脳梗塞リスクが高まるため栄養サポートが必要な疾患である。消化管の食道、胃、小腸、大腸やその他の消化器系の肝臓、胆のう、膵臓の機能を再確認し切除手術後の適切な栄養管理の充実に努める。

誤嚥性肺炎を起こしやすい病態(脳血管障害、神経筋疾患、意識障害等)を認識するとともに、解剖学的に主気管支の分岐する角度が右のほうが鋭角になっているため、右肺が誤嚥しやすいことを理解することで現状の把握やリスクの軽減を図ることができる。

慢性閉塞性肺疾患の場合は、呼吸苦があるため、まず食事摂取が可能かどうかを判断する。食べられないときは絶食を考えず、呼吸器疾患用の経腸栄養を主軸として検討する。食べられるようなら食事を提供する。このように早く経腸栄養を開始することが大切である。この時も疾患の原因及び特徴を把握し管理栄養士としての確かな判断ができることが重要である。

また、近森病院での症例検討の方法について紹介された。各症例での見落としてはいけないポイント、食事提

供の判断基準や根拠等、患者のためを一番に考えて行動することが大切である。

管理職は後輩を育成するために解剖学、生理学、生化学などの基礎学問を理解し、的確な指導ができるようスキルアップに努める必要がある。

また管理栄養士は、知識は持っているが医療チームの中でも消極的で、力が発揮できていない。他の医療スタッフと同等に意見交換ができるように医療用語の習得や、自信をもってNSTチームの中心的役割を担い各職種の行動・思考を把握し、マネジメントができる能力を身につけることが急務である。

(栄養管理委員 宇野富美子)

